2017年8月14日 ご参考資料

楽読（ラクヨミ） Vol. 1,262

Raku Yomi

楽読（ラクヨミ）

下落基調が続く米ドル（対円）
～米金融政策の正常化の進展に注目～

nikko am fund academy

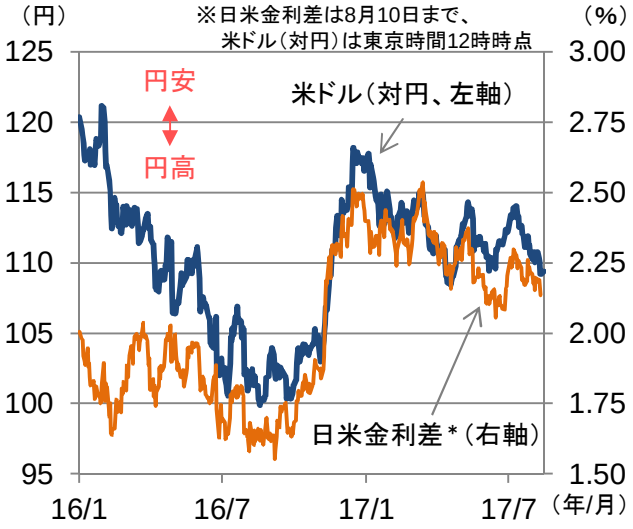
為替市場で、米ドル（対円）の下落基調が続くなか、足元で北朝鮮の地政学リスクが改めて意識されたことで、米ドル（対円）の下落が加速しました。

下落基調の背景には、トランプ政権のロシアとの不透明な関係を巡る疑惑や閣僚の相次ぐ交代など米国政治の混乱に加え、賃金や物価の鈍い動きなどを背景に、米長期金利が低下し、日米金利差が縮小傾向となっていることなどがあります。米ドルは円以外の通貨に対しても下落基調となり、総合的な米ドルの価値を示す米ドル指数は、昨年5月の水準にまで下落しました。

そうしたなか、先週から北朝鮮と米国の双方による過激な発言が目立つようになったことで、投資家が円を買う動きにつながりました。シカゴIMM通貨先物の投機筋のポジションをみると、円売り・米ドル買いのポジションが高水準となっており、今後、地政学リスクがさらに高まりポジションを解消する動きが大きくなった場合、短期的には円高・米ドル安が一段と進む可能性があります。ただし、米国と北朝鮮の間に有事が生じた場合、一時的には投資家のリスク回避の動きに伴ない、円高・米ドル安が強まるとの見方が多いものの、日本も当事国になる可能性などから、その後、円は売られやすいとの見方もあります。

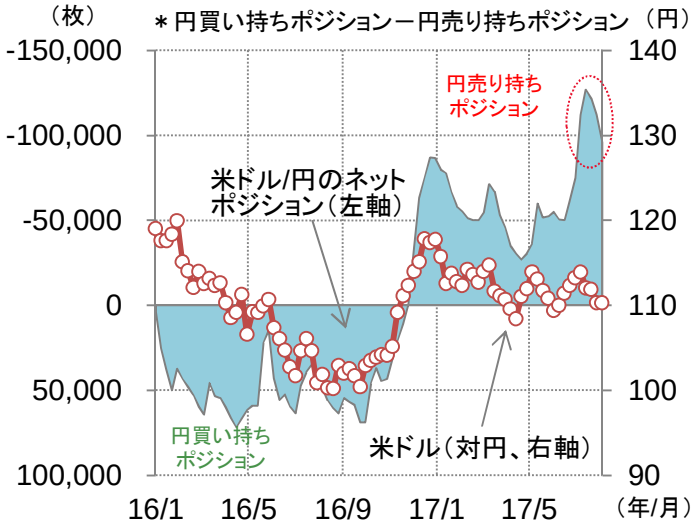
なお、FRB（米連邦準備制度理事会）は、早ければ今年9月にも保有資産の縮小開始を決定するとみられる一方、年内あと1回とされる利上げについては、米国の物価上昇が鈍いことなどから、政策目標の2%に向かう物価の動きを確認できるまで、追加利上げを待つ可能性もあります。しかし、米国の賃金上昇は緩やかなものの、雇用者数は順調に伸びているほか、失業率の低下も続いており、雇用市場の改善を受けた個人消費の拡大は、今後も続くとみられています。こうした景気改善を背景に、金融政策の正常化は進むとみられ、中長期的に、米金利には上昇圧力がかかりやすい環境が続くと考えられることなどから、米ドル（対円）は持ち直していくと期待されます。

米ドル（対円）と日米金利差の推移
（2016年1月初～2017年8月14日※）



＊米国10年国債利回り－日本10年国債利回り

米ドル/円のネットポジション＊
（2016年1月5日～2017年8月8日、週次）



（CFTCなど信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成）

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。